

鹿島鉄道の存続を願うアピール文

全国各地で地方鉄道の危機が続いています。

鉄道の歴史は古く、大きな都市から小さな町を結び、山や川を越え、人々の暮らしを支えてきました。いつも変わらぬ、列車の行き来は、沿線住民の財産です。

茨城県は、高速道路や港、空港まで整備する計画が進行しています。移動手段を選択できる可能性がひろがります。しかし、これらの事業にはたくさんの税金が使われることでしょう。鉄道は騒音も排気ガスも少なく、「かしてつ」は年間80万人もの人を運んでいます。そんな鉄道の利便性を活かし、茨城県はつくばエクスプレスと「かしてつ」の共存、車社会と鉄道の共存を「関係者の知恵と力を集め」創り出してください。

昨年3月末に廃線になってしまった日立電鉄線の存続運動は、「かしてつ応援団」の協力がなければ立ち上がることができませんでした。日立電鉄線がなくなった今、私たちは寂しい気持ちと共に、代替バスでは補いきれない不便な生活を送っています。交通弱者にとって、自分が運転しないで移動できる電車は、とても大きな存在であり、生活の一部となっています。

日立電鉄線「廃線」問題で、私たちは地方鉄道の存続の難しさを学びました。なぜ、難しかったのか、その答えはもっとあとになって分かってくるでしょう。「廃線」は問題だらけです。

「かしてつ応援団」はたくさんのイベントや署名活動などを次々に行い、沿線住民の気持ちを代弁してきました。がんばれ！「かしてつ応援団」。

私たち「水郡線サポーターズ高校生徒会連絡会」とここに集まったすべての参加者は、鹿島鉄道の存続を願っています。

2006年7月23日、「第2回高校生 水郡線 サミット」において、このアピール文を採択します。

以上

「第2回高校生 水郡線 サミット」日程

主催 水郡線サポーターズ高校生徒会連絡会
*参加団体 県立佐竹高校生徒会（事務局）
県立太田第二高校生徒会
県立那珂高校生徒会

①日 時 7月23日（日） 10時～12時30分
会 場 県立那珂高校・六葉館